

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(9/5)

文・写真：武田、写真：山田、山國

日時：2019(令和元)年 9月 5日(木) 9:30～15:00

気象：天候=晴

活動エリア：「44林班ろ」の本山寺水源手前斜面と尾根上のモニタリング調査区とどの周辺

活動内容：林床整備

参加者：石原順子、内海宏一、斧田一陽、工藤貴士、倉谷邦雄、越野雅美、武田壽夫、豊田哲也

宮本 廣、山田真也、山 國

計 11 名

<岩にしみいる……>

クマ・ワシ・アブラからミンミン、ツクツクへと蝉はカワユイ鳴き声に交代している。作業小屋の辺りはスッカリ夏から秋の音色。涼味を期待するが、今日の活動はお馴染みの「44林班ろ」西斜面ほか。谷部は南・西が開けていて、おまけに今年の台風で多くの木が倒されているので「カンカン照り」で今日は風通しも悪い。とは言え、中腹までの整備は仕上げたいし、併せて、来月からのモニタリング調査区と周辺整備の手始めに尾根上の調査区の様子も見ておきたい。谷に7名、尾根に4名の二班に別れて出発。尤も、午後三時過ぎには雷雨との予報なので、ゴロゴロが近づけば即撤収の心積り。

<今日の成果>

谷での作業は傾斜があまりきつくない中腹まで、それでも30度近くはありそう。その上、裸地に近く、落枝も相俟って足下は崩れ勝ち。鋸を構える立ち位置にも苦勞する有様なので、毎度、雨がなくても汗でシャツはビッショリ。それでも30m×30m×二組=1800㎡を片付ける。中でも30cm超の根起しの切離しは圧巻。尾根上のモニタリング組は200㎡を林床整備、枯損木など8～9本を除伐。中腹組と違って木が多く、日差しが遮られ勝ちだったのが救いだったかも。暑熱に閉口し二時半過ぎから逐次下山。(下山時、驟雨あり)

<祝!! 鐘樓の修復成る>

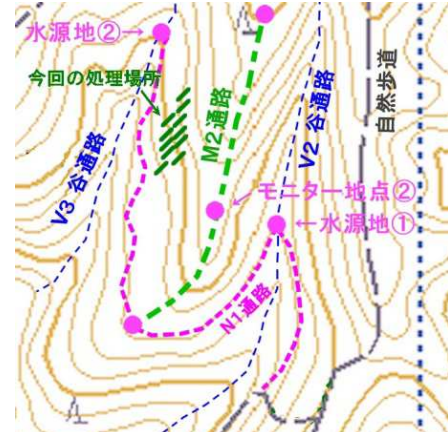
振り返ると台風21号禍は一年前の昨日、倒木はじめ活動地の爪跡はまだ癒えないが、一足先に本山寺さんの鐘樓の工事足場が外された。大木二本が屋根に倒れ落ちていたもの、善哉々々。一方、我が森林づくりの前途はなお遼遠。「前途程遠馳思於鴈山之暮雲 (和漢朗詠集)」、slow & steadyで。団栗や狐の茶袋(=ホリカ)の応援もあり。

(本文 終り)

<集合写真—終了時>



<活動地要図-水源地②とモーター地点②の辺り>



<先ず、ロープ掛で伐倒方向の確保>



<倒した枯損木を玉切り>



<作業後のモタリク`調査区周辺>



<修復なった鐘楼・新しい垂木が見える>



<倒しても枝が絡んで落ちてくれない根起し>



<ようやく玉切りが可能に>



<倒木・落枝が散乱する斜面>



<落枝を集めて棚積み>



<狐(狸)の茶袋(ホリタケ)穴から胞子を放出する>



<どんぐり(コロコロ ドングリコ)>

